

## 平和な社会を実現させる力を身につける授業をめざして

---

学校所在府県：兵庫県	指導時数：3時間
学校名：兵庫県立芦屋国際中等教育学校	対象学年：中等教育3年生
名前：武田 ひとみ（社会）	対象人数：39人
実践教科：社会（公民的分野）	

---

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

#### （1）多様な日系社会について

今回の研修では2ヶ所の日系社会を見学した。移民から105年都市部に位置するサンパウロと、移民から84年農村のトメアスである。この2つはともに「日系社会」でありながら同じ「日系社会」という言葉でまとめることは不可能だと感じた。

サンパウロに対しては「安定」「成熟」「成功」「地域のリーダー」などのイメージをもった。しかしトメアスに対しては「立ち向かう人々」のイメージである。ブラジル政府に立ち向かい自然の猛威に立ち向かう。自然保護団体に立ち向かい多国籍企業や先住民・異文化の人々にも立ち向かう…トメアスの人々にはそのようなイメージをもった。しかし決して排他的なのではない。難題に正面から向き合い、皆で力を合わせて、受け入れ折り合いをつけたりする努力をされているのがよくわかった。

#### （2）日系人や日本人の活躍について

めざましい経済発展を遂げているブラジルで働く日系人や日本人の生の声を聞いたことが、大変良かった。農業・商業・学校経営・教育・医師・通訳など、どの人も自分の仕事に誇りをもち、いきいきと働いておられた。本校の3学年にはブラジル国籍の生徒がおり、また海外への進路を考えている生徒も多いので、生徒たちへのメッセージをいただけたこともありがたかった。

またブラジル人が、日系人や日本人を高く評価していることがわかり、大変うれしく思った。

#### （3）JICAの仕事について

中学校で社会科を指導していれば、第3学年の「公民」で必ず「国際協力」について指導する。その際、政府開発援助（ODA）に触れてはいたが、さほど重きを置いた指導はしていなかった。これまでの内容は「教養としての国際協力」「テストに出る国際協力」でしかなかったのではないかと。しかし、実際に教師海外研修に参加し、授業準備をするうちに、JICAについて多くのことを知りより深く考えるようになった。

#### （4）教育の大切さ

日本では教育改革が叫ばれ、何かと批判されることも多い学校現場である。

家庭や地域の教育力が低下しているのも事実である。

「時間に正確であること」「正直であること」「身の回りを清潔に整えること」「一生懸命に頑張ること」「あきらめないで工夫すること」「相手の立場に立って考えること」「場に応じた気遣いができること」が身につけているからこそ日系人・日本人が高く評価されていた。遠く離れたブラジルの地で日本の良さを目の当たりにし、家庭・学校・地域社会における教育の大切さを再確認した。

## 2. カリキュラム

### (1) 実践の目的・背景

#### ①ブラジルにルーツをもつ生徒のために

本学年にはブラジル国籍の生徒がおり、一人ひとり生活背景が違っている。欧米や英語圏に目を向けがちな彼らに自分のルーツについて知るきっかけをつくり、アイデンティティの確立に役立ちたい。

#### ②本校の特性を考えて

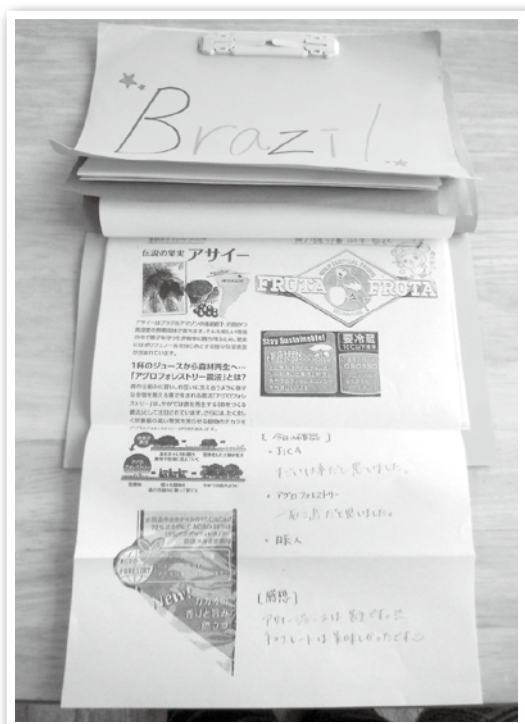
本校は県立の中高一貫校で、生徒の75%が外国籍（重国籍を含む）をもっており、校内のあちこちから様々な言語が聞こえてくる国際色豊かな学校である。外国は身近なものであり「後期課程（高校に相当）になったら留学したい」「外国の大学へ進学したい」という生徒はもちろん多いが、それだけでなく「世界平和の為に働きたい」と考えている生徒が非常に多い。これまで国連やNGOについて指導した際、生徒たちは大変意欲的に学習していたので、発展途上国への国際協力を行うJICAについても強い関心を示すと思われる。

#### ③歴史を背負う子どもたち

外国にルーツをもつ生徒が多く通う本校の歴史教育は、過去（原因）と現在（結果）の学習を通して、それぞれの生徒がよりよい未来を予想し、実現のための実践力を育てる場であると私はとらえている。「移民」の歴史を通して「なぜ」「どうすれば」を考える授業をつくりたい。

### (2) 授業の構成

- 教師海外研修前…7/3（水）教師海外研修についての概略説明、依頼  
7/4（木）ブレイクタイム、日系人の活躍  
7/5（金）NHK「ホットスポット」「世界遺産」  
7/8（月）自己肯定感アンケート（ブラジル人との比較）  
教師海外研修後…「本日のブラジル」（モノランゲージ、フォトランゲージ）



- No 1 木ブドウのジュースの素（多国籍企業）…試飲
- No 2 サンパウロ交番
- No 3 ブラジルと日本のガラナ飲料
- No 4 日本の漫画
- No 5 サンパウロの寿司
- No 6 電気シャワー
- No 7 店の入り口、会計一括カード
- No 8 市場の様子（映像）
- No 9 長い蛇腹バス（映像）
- No 10 黄金の草
- No 11 havaianas
- No 12 Melissa

◀本日のブラジル No.14

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 時限目 (No. 13)</b> JICA について知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JICA が日本政府の ODA を担当する組織であること知る。(モノランゲージ)</li> <li>● JICA の二国間支援について考える。援助のあり方や金額など</li> <li>● JICA で働く人々について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パスポート</li> <li>● プリント</li> <li>● 教科書</li> <li>● 資料集</li> </ul>
<b>2 時限目 (No. 14)</b> 日系社会について① * 農業の特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JICA で働く人々について知る。</li> <li>● ブラジルの農業について学習する。コーヒー、カカオ、フルーツ (アサイー) (モノランゲージ)</li> <li>● 農業の特徴について学習する。</li> <li>● 日系人の暮らしについて知る。</li> <li>● ジュースを試飲し、チョコレートを試食する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プリント</li> <li>● アサイージュース</li> <li>● チョコレート</li> <li>● プレスレット</li> <li>● 資料集</li> <li>● ビデオ映像</li> </ul>
<b>3 時限目 (No. 15)</b> 日系社会について② * 歴史など  * 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 兵庫県 (神戸市) と日系人の関係を知る。</li> <li>● 移民の歴史を学ぶ。</li> <li>● なぜ移民したのか。なぜブラジルだったのかを考える。</li> <li>● 日系人の歴史や課題について知る。</li> <li>● これまでの学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジュースのパッケージ</li> <li>● 地図</li> <li>● ビデオ映像</li> <li>● 写真</li> <li>● プリント</li> </ul>

### 3. 授業の詳細

#### 1 時限目 : JICA について知る

ねらい…日本の ODA を担当する JICA について理解する。

##### ◆内容◆

- ① JICA が日本政府と深い関わりを持っていることを知る。
  - ・ 教師海外研修で使用した公用パスポートを使ったモノランゲージ
- ② JICA の仕事内容を理解する。
  - ・ 教科書、資料集、「本日のブラジルNo.13」などを使って日本政府の ODA に対する考え方を知る。
  - ・ ODA の内容について知る。どれぐらいのお金がどのように使われているのか考える。
- ③ JICA で働く人々について知る。
  - ・ 資料集の JICA 企画調査員や青年海外協力隊の話などを読む。



JICA ブラジル事務所

##### 生徒の反応

- \* 二国間協力の支出のうち、有償資金援助の占める割合が最も多いことが嫌！
- \* 青年海外協力隊が行うスポーツの指導は何の援助になるのですか？
- ▶ JICA はすごいことをやっているんだなあ。

◆所感◆ \* 印の「有償資金援助を嫌がる」「スポーツと国際協力の関係を疑問視する」の生徒の反応は大変興味深い。考える時間をつくり、深まった生徒の意見を全員でシェアしたい。

1 時限 参考資料 JICA PROFILE (2012 年 10 月)、「新しい社会 公民」(東京書籍)  
「新しい公民」(浜島書店)

## 2時限目：日系社会について①

ねらい…特徴あるアマゾン地域の農業について理解し、日系人の活躍について関心をもつ。

### ◆内容◆

- ① JICA の支援について復習する。
  - ・ JICA ブラジル事務所次長補佐小林千晃氏のインタビュー映像を見る。  
「JICA は、人を介した技術援助を行っています。」
- ② アマゾン地域の農作物について学習する。
  - ・ 7月に行ったプレーンストーミング…「ブラジル＝コーヒー」それだけ？
  - ・ プレスレット（モノランゲージ）がアサイーの種でできている。果肉はどこ？
  - ・ カカオやコショウの写真（フォトランゲージ）
- ③ アマゾン流域で行われている農業の特徴について知る。
  - ・ アグロフォレストリーについて（資料集、プリント）
- ④ 日系人がアグロフォレストリーを実践していることを知る。（ビデオ映像）
- ⑤ アサイージュースを試飲しチョコレートを試食する。

### 生徒の 反応

- ▶ アグロフォレストリーはよく考えられた農法だと思います。
- ▶ アサイーはブルーベリーみたいに全部柔らかい実だと思っていた。
- ▶ 少ししか果汁がとれないと聞いてびっくりした。今日飲んだのは何粒分かな。
- ▶ アサイーは大好きでよく飲んでいたので、ブラジルと関係があるとは思ってもみなかったから知れてよかった。
- ▶ アサイーは苦手な味。
- \* アサイーは高いところに行けるってテレビでやっていた。名人でもとれないくらい高いんだって！！
- \* アサイーってほとんどが種で果肉が少ししかない。売り物のジュースを作るには効率が悪いのに、なぜこれを栽培して商品化するのかなあ。
- ▶ 高くても、この農法で作られたチョコレートを買いたい！
- \* 「カカオ＝児童労働」のイメージが強くてこれまでチョコレートを食べる時に罪悪感があった。これからはアグロフォレストリーを思い浮かべて食べます。
- \* アグロフォレストリーを考え出して実践している日系人ってすごい。
- ▶ アマゾンの農業や日系社会についてもっと知りたい。

### ◆所感◆

自分たちの生活とブラジルが直接深く関わっていることを強く実感できたのはこの授業が初めてなのではないか。生徒たちは、日頃授業やテスト勉強で使っている資料集に出ている「森を育てながら農作する方法」という言葉と、食品パッケージに記載されている「アグロフォレストリー」が結びついていることに驚いたり喜んだりしていた。

森から恵みをいただき、森を守る日本の「里山」の知恵との関連を調べてみたい。

\* 印の生徒の反応は、授業を深める発言であるので、今後の授業に活かしたい。

### 3時限目：日系社会について②

ねらい…移民の歴史を学び、「日系人」「日系社会」について関心をもつ。

#### ◆内容◆

4人で1班をつくり、班で学習する。

- ① 兵庫県神戸市とブラジル移民の関係を知る。
  - ・アサイージュースのパッケージに注目する。
  - ・シンボルマークの下に「BELEM-KOBE」の文字をみつけ、ベレンは地名であると予想する。
  - ・プリントの地図を使って、ベレンとトメアスの場所を確認する。
- ② 移民の歴史を学び、なぜブラジルに移民したのかを考える。
  - ・日本中の移民希望者が神戸に集まり、神戸で集団生活をし、神戸港から出発したことを知る。
  - ・日本とブラジルは100年以上前から国交があることを確認する。
  - ・ブラジルへの移民開始が1908年であり、日露戦争直後であったことやブラジルの奴隷解放、北米の排日運動など様々な背景があったことを理解する。
- ③ 農業に従事するトメアス日系社会のビデオや写真（教師海外研修で撮影）を見る。
  - ・トメアスの人々は皆で力を合わせ、自然の猛威や農作物の病気、腐敗政治など多くの困難に立ち向かい解決しようとしていることを知る。
  - ・サンパウロにも大きな日系人社会があることを知る。
- ④ これまでのブラジルに関する学習を振り返り、プリントに記入する。



▲ブラジル・コロニア風の交番（神戸・元町）

#### 生徒の反応

- ▶ ブラジル政府がアマゾンを保護しようとする姿勢は評価できる。
- ▶ アマゾンを開拓し、アグロフォレストリーを進める日系人はすごい。
- ▶ 日系人の工夫や努力はすごいと思います。
- ▶ 日本が貧しい時代もあったのだと初めて知った。
- ▶ JR元町駅そばの交番やモニュメントなど、見ていたけど気づかなかった。
- \* なぜブラジルへ移民したのですか。
- \* JICAが行っているアマゾン保護の支援についても知りたい。
- \* 日系社会についてももう少し詳しく知りたい。
- \* サンパウロについても知りたい。

#### ◆所感◆

今回も生徒の反応の中に、授業を深められるような発言があった。特に\*「なぜブラジルなのか」の問いの答えはこの授業に必要なことだったので後回しにせず、私が説明した。

その他の\*印については、今後の授業で深めていきたい。

2・3時限 参考資料 「知られざるブラジル移民の歴史展」パンフレット（財団法人日伯協会）  
アサイージュース（株式会社エース）、（株式会社フルッタフルッタ）



## 4. 成果

### (1) 生徒の成果

#### ① ブラジル国籍の生徒と私自身の距離が縮まった。

授業の準備をしていてわからないことがあるとブラジル人生徒に質問する私が、決まって「ブラジルに関しては〇〇さんの方が先輩やからなぁ」というと笑って答えてくれる。わからないことは、家に帰って保護者に尋ねて答えを用意してくれる。大変ありがたいことに、保護者からも声をかけていただいた。

日本育ちの生徒は「自分もブラジルに行ってみたい」と目を輝かせて話すようになった。

毎回の授業でブラジルについて話すうちに、ブラジル国籍の生徒たちとの距離がかなり縮まったように思う。

#### ② ブラジル国籍ではない生徒たちが、ブラジルについて関心をもった。

「日本から遠く離れたブラジルについて、いろいろなことがわかって良かった」「ブラジルが身近に思えるようになった」「行ってみたい!」と多くの生徒たちが感想を述べている。数時間の特別授業だけではなく、毎回の授業でブラジルに関する大小様々な情報を私が伝え続けることで、生徒たちはブラジルを身近に感じ、日本とブラジルの外交史や日系社会の文化などに関心をもつようになった。週に一度ポルトガル語の授業を選択している生徒のなかに、「ブラジルに行って話してみたい」と思うようになった者もいる。

このような変化は、ブラジル国籍の生徒に対する理解の深化にもつながると思う。

#### ③ 国際協力・国際貢献への意識がさらに高まった。

JICAの具体的な活動を伝えることで、自分にできることは何かを考える生徒が出てきた。

### (2) 私の成果

教師海外研修で得た莫大な量の情報を、いつ、どのように整理して生徒に伝えるかを考え、授業を組み立てることは有意義であった。私の予想をいい意味で裏切る、生徒の意外な反応が多かった。授業の準備に時間はかかっても「本日のブラジル」（ブラジル関連授業）を続けたいと思うようになった。

今回の授業実践を通して、新しい授業のスタイルを見つけることができたことが、私の成果である。

## 5. 課題

### (1) 生徒の思考が深まり発展する授業の工夫をする。

生徒は、国際理解や国際協力に対して強い関心をもっており、創意工夫した指導を継続することによって、多文化が共生する平和な社会を実現するための意欲と実践力を身につけさせることができると思われる。まずは、“Think Globally, Act Locally”を忘れず、地道な授業実践を続けたい。

① 全ての生徒がアイデンティティを確立するために、国際理解・開発教育を通して支援する。

② 今回の授業で生徒たちから出た意見や疑問を取り上げ、グループ討議やプレゼンテーションなど生徒の動きが見える授業を考える。

③ 一人ひとりの生徒が自分のテーマ（環境やエネルギー問題、国際協力など）を決め、調べ学習を進め発表する。

### (2) 教師海外研修の経験を他の教員に伝え、開発教育を広めていく。